

〈事例報告：利用者による選書〉

城西大学水田記念図書館におけるキノコレを利用した学生選書の取り組み

関口 千登世^{*1}, 中村 祥子^{*2}, 伊藤 陽子^{*3}

[抄録] 本学は2008年度より授業の教科書や参考書をそろえたシラバスルームを設置し、授業支援を行っている。しかし、最近レポートや卒論作成のテーマは広域に渡り、幅広い内容の図書が必要とされていることが見受けられる。そこで、学生のニーズに対応した学習支援と学生の図書館への関心を深めることを目的に、学生選書を実施した。キノコレサービスを利用した学生選書について企画から実施までの経緯と、参加者へのアンケートの集計結果等も交え報告する。

[キーワード] 学生選書, 学習支援, キノコレ, アンケート調査, 城西大学水田記念図書館

1. はじめに

本学図書館では以前から学生へのサービスとして購入希望図書制度（リクエスト）を設けており、カウンター前に専用用紙と投入箱を設置している。また、ホームページからはオンラインでの受け付けもしている。これらの利用状況をみると、利用はされているが幅広く利用されているとはいえない状態である。授業支援資料としては、2008年度よりシラバスルームを設けて授業の教科書や参考文献をそろえているが、最近カウンターでの対応でもレポートや卒論作成には幅広い分野の資料が必要だということを感じる。また、過去2回実施した全学対象の図書館アンケート¹⁾でも図書館の蔵書に対する意見もあり、学生のニーズに答えるためにも学生による選書をやってみたいと考えた。

2. 企画から実施まで

2.1. 企画

以前から他大学の学生選書ツアーの事例を聞く機会はあったが、書店に向いての選書ツアーは本学の立地条件を考えるとなかなか実践することは難しいものがあった。そんな折、2010年図書館総合展のセミナーで武庫川女子大学附属図書館のキノコレ配本システム（以下、キノコレ）を利用した学生選書の取り組みについての発表を聞く機会があった。キノコレとは紀伊國屋書店の新刊自動配本サービスで、希望する出版社の新刊本を見計らい図書として指定した場所に届けてもらえるシステムである。本学も以前からキノコレを利用し、教員や図書館員が選書対象としていたので、これならばできるのではないかとの思いが強くなった。図書の内容については購入希望図書制度と同様に、娯楽・趣味に関するものは対象外とし、本学の収書方針である「収書は本学の教育・研究の充実と発展及び学生の学習、人間形成並びに社会的常識の向上、その他本館の目的達成を目指す」に基づき選書するが、キノコレなら学術書が中心となるような出版社を選択できるのである程度の基準はできていると思われる。また、学内で実施することは参加者自身が時間を調整でき

^{*1}Chitose SEKIGUCHI, ^{*2}Sachiko NAKAMURA and ^{*3}Yoko ITO

城西大学水田記念図書館

〒350-0295 坂戸市けやき台1-1

^{*1}E-mail: cseki@josai.ac.jp

て、交通面でも安全に実施できるという大きなメリットがある。

以上のことをまとめ、企画書を作成した。

〈目的・趣旨〉

- ・学生が必要とする図書を購入することにより、学習支援の向上をめざす。
- ・学術書を実際に手にとって選書することにより、図書をみる目を養い、今後の学生自身の学習に役立たせる。学術書とはどのようなものか知ってもらおう機会を提供する。
- ・学習に必要なと思われる図書館蔵書を学生が選書するという、参画意識をもたせる。
- ・参加することにより図書館を身近に感じてもらい、関心を持ってもらう。図書館に足を運ぶ機会を作り、図書館の利用促進、活性化を図る。

〈実施日時〉

平成 23 年 12 月 1 日～12 月 9 日（その後 14 日まで延長）、月～金曜日 10～16 時（11 時 30 分～12 時 30 分を除く）

〈募集人数〉定員 20 名（多数の場合は抽選）

〈申込み先〉図書館カウンター

〈選書冊数〉1 人 10 冊まで

- ・選書した理由や推薦文を簡単に記入してもらい、図書と一緒に展示する。

実施日程についてはその後の展示を考え、年末年始休暇前に図書が借りられるように調整した。

以上の内容で図書館運営委員会および図書館選書委員会に提案した結果、無事承認を得ることができた。

2.2. 広 報

成功させるための第一歩として、まずは参加者募集のチラシ（図 1）を作成した。カウンターで学生に声をかけながら配布し、教員、事務局へも配布した。教員へは電子メールでも配信し、学生への案内の協力をお願いした。さらに電子掲示板システムを利用した全学生への一斉メール配信、ホームページ、JUNavi（学生用電子掲示板）、図書館エントランス電子掲示板、事務棟エントランス・マルチビジョン、twitter でもお知らせした。広報は学生への周知はもちろんだが、図書館の活動を学内へアピールする良い機会でもある。最初は、募集を開始しても、学生選書というものが周



図 1 募集チラシ

表 1 所属・学年別参加人数（合計 16 名）

経営学部（2・3 年生）	2 名
経済学部（2・3・4 年生）	4 名
現代政策学部（2・3 年生）	3 名
理学部化学科（3 年生）	1 名
理学部数学科（1・4 年・院生）	3 名
薬学部薬学科（2・4・5 年生）	3 名

知されていなかったためか、なかなか参加者が集まらなかった。そこで、10 月に開催したビブリオバトルに出場した学生に声をかけたり、図書館をよく利用する顔見知りの学生に声をかけたりした。中には、参加してみたいが就職活動で忙しく、大学に来る時間も限られているため参加できないという学生もいた。館内にいた学生にも声をかけ「図書館をどのように利用しているか、授業に関連する資料はどのように入手しているか」などを聞きだしながら案内をし、参加することになった学生もいた。このような広報活動の結果、ほぼ所属学部・学年の偏りなく 16 名が参加することになった（表 1）。

2.3. 選書の様子

学生選書用図書は図書館事務室内の書架に約 600 冊を用意した。配架も選書する学生にとって授業や学習に関連する図書がわかりやすいよう



図2 熱心に選書する学生



図3 専門分野以外の図書からも選書

に、分野ごとに分けて並べた。選書の際は、各自名簿に記載された自分の番号を付箋紙に記入し選書した図書に挟み、指定のブックトラックに並べるようにした。展示の際に添える選書理由も記入するようにした。学生は授業の合間や昼休みなどの好きな時間に参加し、時間が重なるのが少人数だったこともあり、落ち着いてじっくりと選ぶ姿が見受けられた（図2, 3）。中にはあまり時間が取れないので短い日数で選書した学生もいたし、時間があるときに何度も図書館に来て選んだ学生もいた。ページをめくりながらじっくりと選んでいる姿は、大変まじめで一生懸命さが感じられた。

2.4. アンケート結果

アンケートを実施した結果、参加者16名のうち15名から回答を得られた。設問数は13項目で

あり、以下に主なものを紹介する。

〈設問〉図書館学生選書2011をどのようにして知ったか。（複数回答可）

- ・図書館員の紹介（9人）
- ・チラシ（5人）
- ・JUNavi（学生用電子掲示板）（3人）
- ・図書館ホームページ（2人）
- ・図書館エントランス電子掲示板（2人）

この回答から今回は先生からの紹介やtwitterの効果は及ばなかったが、図書館での声かけによる効果があったことがわかる。

〈設問〉図書館学生選書2011に参加した理由は何か。

- ・図書館に置く図書を自分でも選んでみたいから。（10人）
- ・面白そうだから。（8人）
- ・誘われたから。（2人）

〈設問〉学生選書に参加して満足度はどのくらいか。

これには14名の学生が「満足」か「ほぼ満足」と回答し、以下のような理由を聞いた。

- ・普段読まない本と出会い、読みたくなったから。
- ・選書の仕事の一部に携われたから。
- ・実際に手に取って図書館に並ぶ本を選ぶという、とても貴重な体験ができたから。
- ・お金がかからずに、今後の研究・勉強に役立つ本が選べたから。

この2つの設問の回答からは、目的に掲げた“学習に必要な図書館蔵書を学生が選書する”という参画意識と“図書をみる目を養い、今後の学生自身の学習に役立たせる”という点が達成できたと思われる。中でも興味深かったのは、薬学部から参加した3人ともが「薬学関係以外の分野の本に出会えて楽しかった」という感想を述べている点である。日頃、授業や実験で忙しい薬学部生ではあるが、学生選書に参加したことにより幅広い内容の本に出会うきっかけとなったことは大きな効果でもあった。これは総合大学ならではの利点でもあり、これを機会に専門分野の学習だけでなく、さまざまな分野に目を向けて、これからの薬剤師に望まれるコミュニケーション能力や倫理性

を身につけてもらいたいとの思いがいっそう深まった。

さらに以下のような選書に対しての積極的な意見や、図書館への関心がうかがえる声も聞くことができた。

- ・本学は心理学や地理学の専門学部がないので、これらの入門書がもっと多くあれば良いと思う。
- ・自分で選べたのでとても良かった。もし可能なら各学部に関連する本のリストを作成し、他の人の意見も参考にできたらもっと充実するのではないかと思う。
- ・ある程度限られた中からの選書なので、自分がどの分野に関心があるのかを明確にできる良い機会となった。
- ・図書館が今後どうなっていくのか楽しみ。



図4 学生選書 2011 展示

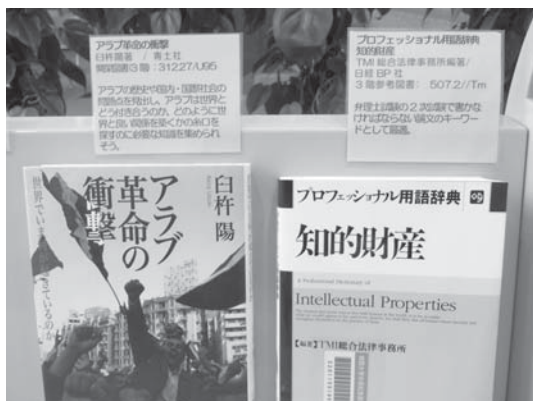


図5 推薦文のポップ

・意外と興味のある本があったので参加して良かった。次回も参加してみたい。

2.5. 選書本の展示

今回選書された図書121冊を「学生選書2011 学生が選んだおすすめ本121冊」として展示した(図4)。選書の際に書いてもらった推薦文もポップにし、図書と一緒に展示した(図5)。ホームページの展示紹介にはOPACのタイトル一覧が見られるようにし、各書誌・所蔵情報も確認できるようにした²⁾。また、以前から利用しているウェブ本棚「ブックログ」にも“学生選書2011”のカテゴリを追加した³⁾。ブックログはウェブ上に本棚を作り好きな本を並べることができるサービスであり、本学では毎月の新着図書や企画展示で紹介した図書の本棚を作っている。“学生選書2011”の本棚には選書本を並べ、レビューには推薦文を掲載した。これらの展示やブックログなどの案内を教職員宛てに電子メールで配信をしたところ、教職員も展示コーナー前に立ち止まるようになった。貸出数も徐々に増えており利用促進につながっていることがうかがえる。

3. 反省と今後について

今回の学生選書は準備期間が短かったため、参加者募集に時間がかげられなかった点が大きな反省点である。また、選書冊数も1人10冊までとしたが、数冊しか選書できなかった学生もいたため、今後は分野を広げることも考えていきたい。今回キノコレを利用し学内で実施できたことにより参加者自身が時間を調整できたこと、交通面の安全性や授業への影響がなく実施できたことなどが図書館にとっても学生にとっても大きなメリットであった。何よりも学生が真剣に図書を選ぶ姿には学習意欲につながるものが感じられたし、図書館員にとっても次回以降への意欲が湧き大きな喜びになった。今後も学生の声を取り入れ、学習意欲が向上するような学生選書の機会を設け支援を続けていきたい。

引用文献

- 1) 城西大学水田記念図書館. “図書館利用者アンケート「図書館サービス向上のためのアンケート

ト」調査結果報告書 2008 年 3 月 24 日”。(オンライン), 入手先 <<http://libopac.josai.ac.jp/guide/statistics/riyousha/enquete/riyousha2007.pdf>>, (参照 2012-01-20).

城西大学水田記念図書館. “「図書館サービス向上のためのアンケート」調査結果 2009 学生/教職員 2010/6/19”. (オンライン), 入手先 <http://libopac.josai.ac.jp/guide/statistics/riyousha/enquete/riyousha2009_gakusei.pdf>, <http://libopac.josai.ac.jp/guide/statistics/riyousha/enquete/riyousha2009_kyoin.pdf>, (参照 2012-01-20).

2) 城西大学水田記念図書館. “【ミニ展示】学生選書 2011 学生が選んだおすすめ本 121 冊”. (オンライン), 入手先 <http://libopac.josai.ac.jp/opac/rmbook/opac_rmbook.cgi?lang=&rmtype=2&disp=list&dptidpl=1&rmkey=8901>, (参照 2012-01-20).

3) “城西大学水田記念図書館の本棚 学生選書 2011”. ブクログ. (オンライン), 入手先 <http://booklog.jp/users/libjosai/All?display=front&category_id=1835906&status=0&rank=0&sort=sort_desc>, (参照 2012-01-20).

(原稿受付け：2012.1.31)